

紙おむつ プラも再資源化

使用済み紙おむつのリサイクルを手掛けるトータルケア・システム(福岡市)が、紙おむつの底面や包装に使われるプラスチックをリサイクルする研究を始めた。既に紙おむつからパルプを取り出して



紙おむつのパルプをシート状に加工する工程＝福岡県大牟田市

再資源化する事業は軌道に乗っているが、その工程で出るプラスチックは固形燃料にしてきた。同社は「プラスチックもうまく資源にできれば、事業として完結できる」としている。

福岡市の企業が新研究開始 CO₂削減率 10%アップ

今年7月、経済産業省の「戦略的基盤技術高度化支援事業」に採択され、補助を受けることが決まった。期間は2018年度末までの約3年間。再生プラスチック製造装置などの開発を進め、土木資材などへの活用を目指すという。

同社は01年設立。05年、福岡県大牟田市の工場で紙おむつリサイクル事業を始めた。1日約20トンの紙おむつを処理する。医療機関や福祉施設などのほか、福岡県大木町やみやま市の家庭からも紙おむつを受け入れている。現在の工場の稼働率は約80%。

工程は、紙おむつが入った袋ごと破碎し、分離槽でパルプとプラスチックに分ける。パルプは洗浄、脱水した後、高熱でシート状に成形し、建材メーカーに運んで壁材などに利用している。一方、プラスチックはこれまで外部に委託して固形燃料にしていた。このため、燃料化の費用を抑える狙いもあり、自社でプラスチックのリサイクルに乗り出すことにした。現在の工程で、紙おむつを焼却するのに比べ二酸化炭素(CO₂)を40%削減できるが、プラスチックも再資源化すれば削減率は50%程度になるという。

長武志社長は「大人用も含め紙おむつの需要は今後も伸びる。リサイクルに向けてさらに研究開発を進めたい」と話している。(根井輝雄)